

10月市長定例記者発表要旨

と き 平成26年10月2日（木）9時～10時

ところ 庁議室

1 平成25年度決算見込みについて

平成25年度の普通会計における決算見込みについてご説明します。

まず、歳入歳出の総額ですが、歳入が459億8,082万5,000円で、前年度に比べ5.8パーセント増加し、歳出は453億3,535万5,000円で、前年度に比べ6.0パーセントの増加となり、歳入、歳出ともに3年ぶりに増加しました。

歳入では、国庫支出金、地方債などが増加し、地方税、県支出金などが減少しました。

地方債は、新庁舎建設事業債及び小・中学校施設整備事業債の増額等により増加し、国庫支出金は、「地域の元気臨時交付金」及び普通建設事業費支出金の増額等により増加しました。一方、県支出金については、普通建設事業費支出金及び災害復旧事業費支出金の減額に伴い減少しています。

歳出では、普通建設事業、積立金などが増加し、人件費、公債費などが減少しました。

普通建設事業は、歳入同様、新庁舎建設事業及び小・中学校施設整備事業に伴う増加であり、積立金は、財政調整基金及び減債基金等の積立てにより増加しています。人件費については、職員数の削減及び国家公務員の給与カットに準じた給与削減により職員給与費が減少し、また、退職者数の減少に伴い、退職手当が減額となりました。公債費は、償還元利金の減少等により減少しました。

次に、収支の状況については、実質収支が5億4,206万6,000円で、実質単年度収支が10億8,537万4,000円となり、いずれも黒字となりました。

基金残高については、財政調整基金が64億4,482万7,000円、減債基金が72億4,694万9,000円で、いずれも取り崩すことなく積み増すことができました。この結果、他の目的基金と合わせた基金の合計残高は229億7,596万6,000円となり、昨年度に比べると17億4,141万9,000円の増加となりました。これを合併初年度の平成16年度末と比較すると、127億9,304万8,000円の増加となりました。

市債残高については、臨時財政対策債等の、普通建設事業以外に係る市債が13億300万1,000円増加した一方、普通建設事業に係る市債が12億2,118万9,000円減少した結果、全体で8,181万2,000円の増加となり、市債残高の合計は593億7,528万6,000円となりました。これを平成16年度末と比較すると、108億5,391万3,000円の減少となりました。

次に、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は88.7パーセントで、昨年と比べ2.5ポイント減少しました。これは、歳入で普通交付税、臨時財政対策債等が増加し、歳出で人件費及び公債費

等が減少したことが主な要因です。

財政の健全化の判断基準となる4つの指標のうち、実質赤字比率及び連結実質赤字比率については、いずれも赤字はありません。実質公債費比率は11.1パーセント、将来負担比率は14.4パーセントとなり、いずれも昨年に比べて数値は改善しています。将来負担比率が低下した要因は、退職手当負担見込額の減少及び財政調整基金・減債基金の増加によるものです。

以上が、平成25年度の佐伯市普通会計決算見込みの概要です。財政状況を示す数値は、おおむね改善の方向で推移しています。しかしながら、今後、普通交付税の合併算定替えに伴う加算が段階的縮減期間に入ることから、交付税の動向を注視し、今後とも、行財政改革の推進により財政運営の健全化に努めるとともに、「安心・元気・飛躍」を市民が共有し、実感できる佐伯市の構築に取り組んでいきたいと考えております。

2 市制10周年記念イベントの開催について

佐伯市は、平成27年3月3日に新市発足10周年を迎えます。「市制10周年記念イベント」として、10月から11月上旬に開催されるものについてご案内いたします。

(1) 第26回全国子守唄サミット&フェスティバル2014 in 佐伯

10月26日(日)、「第26回全国子守唄サミット&フェスティバル2014in佐伯」を開催します。

これは、「全国子守唄協議会」に加盟する7市村(静岡県沼津市、熊本県天草市、岡山県井原市、熊本県いつきむら五木村、長崎県島原市、和歌山県いわで岩出市、佐伯市)が、子守唄を通じた地域間交流やまちづくりを進めることを目的に、毎年開催しているものです。

当日は、10時からホテル金水苑で、参加市村の代表による「子守唄サミット」が開かれ、各地域における子守唄の現状や課題についての意見交換や、共同声明の内容について協議します。

引き続き、12時30分からは、会場を佐伯文化会館大ホールに移し、「子守唄フェスティバル」が開かれます。

フェスティバルでは、まず、別府大学文学部教授の段上達雄氏だんじょうたつおをコーディネーターに迎え、「伝統芸能の継承とまちづくり(地域づくり)について」をテーマにシンポジウムを開催します。この中では、市内の神楽・杖踊り・獅子舞などの保存団体の代表者によるパネルディスカッションを行います。

続いて行われる「子守唄コンサート」では、第1部として、全国の子守唄保存団体が各地域に伝わる子守唄を披露します。佐伯市からは、「宇目の唄げんか」を保存・継承している2団体が出演します。

コンサートの第2部では、宇目緑豊小学校の校歌を作詞・作曲し、佐伯市ともつながりが深い、シンガーソングライターいまなりかの今成佳奈さんと吹小学校の児童がステージに登場し、素晴らしい歌声を披露してくれます。

また、フェスティバル開会前の12時から、佐伯文化会館前で、和歌山県岩出市の「根来史研究会根来鉄砲隊」の皆さんによる火縄銃の演武を予定しているほか、フェスティバルの中で

も、シンポジウム参加団体によるアトラクションが披露されます。

「子守唄フェスティバル」は、全国各地に伝わる子守唄など、伝統文化に触れることができる貴重な機会です。入場無料ですので、多くの皆様にお越しいただきたいと思っております。

(2) 帆船「海王丸」寄港イベント

10月31日(金)から11月4日(火)までの5日間、帆船「海王丸」が、佐伯港女島岸壁に寄港します。

海王丸は、帆を広げたその美しい姿から「海の貴婦人」と呼ばれ、佐伯市への寄港は、平成4年以来22年ぶりとなります。

寄港中のイベントスケジュールについては、別紙資料をご覧くださいと思いますが、入港日の10月31日は、10時から入港を開始し、係船後、岸壁で歓迎式典を実施します。

2日目の11月1日(土)には、9時から、海王丸船内の一般公開を行います。期間中、船内に入ることができる唯一のイベントです。受付時間は、午前の部が9時から11時まで、午後の部は13時から15時30分までとなっていますので、ご注意ください。

3日目の11月2日(日)には、10時30分から、今年7月に発足した佐伯海洋少年団のお披露目式を行い、13時から、寄港イベントの一番の目玉となる「セイルドリル」を実施します。期間中、帆を広げた海王丸を見られるのはこの時だけですので、ぜひご覧ください。

また、この日は、10時から、葛港の魚市場周辺で「佐伯みなと神武の火まつり」も開催していますので、あわせてご来場ください。

4日目の11月3日(月)は、イベントは行いませんが、岸壁からの見学は可能です。

最終日の11月4日(火)は、10時から出港セレモニーを行います。出港の際には、帆船で最高の礼である「登橋礼^{とうしやうれい}」を行います。これも、セイルドリルと並んで人気の高いイベントです。平日ではありますが、多くの方に海王丸を見送っていただきたいと思っております。

なお、寄港中、日没から21時までライトアップも行いますので、ぜひご覧ください。

海王丸は、非常に人気の高い船であることから、相当の来場者数が見込まれます。会場にお越しの際は、周辺の交通案内に従っていただきますようお願いいたします。

(3) 第23回全国山頭火フォーラム in 佐伯

「第23回全国山頭火フォーラム in 佐伯」を、11月1日(土)、2日(日)、佐伯文化会館をメイン会場に開催します。

「山頭火フォーラム」は、放浪の俳人と呼ばれ、形式にとらわれない自由な俳句の作家として知られる種田山頭火^{たねださんとうか}を顕彰し、その人生、その俳句を後世まで語り継いでいこうと、全国各地の山頭火にゆかりのあるまちで開かれています。

日程、内容の詳細は、別紙資料のとおりですが、初日の11月1日(土)は、まず13時から開会行事を行います。この中で、今年8月から9月にかけて市民の皆さんから募集した俳句の表彰式を行います。市内の小・中・高校生及び一般の方から1,700を超える応募がありました

ので、各部門ごとに特選1点、入選数点を選考し、表彰を行うことにしています。

14時から、本フォーラムのメイン行事と言える、ステージイベントを開催します。スペシャルゲストとして、俳優・映画監督であり、ご自身も俳句歴が20年を超え、俳句トークショーなども行っている奥田瑛二さんをお招きし、「山頭火の恋」をテーマにトークショーを行います。佐伯市からは、山頭火に造詣が深く、「山頭火の恋」の著者でもある古川敬さんや、フォーラム実行委員長の宮明邦夫さんらが参加し、佐伯市出身の英文学者・工藤好美、その妹・千代との交流にまつわるエピソードの中から、佐伯と山頭火との関わりをひも解いていきます。ぜひ、多くの市民の皆様にご参加いただきたいと思います。

また、ステージイベント終了後、16時30分からは、フォーラムの開催を記念して建立する句碑の除幕式を行います。

2日目の11月2日(日)は、佐伯観光ガイドの会の方々のご案内により、山頭火ゆかりの地を巡る「まち歩き」を行います。9時15分から、やぐら門の前で受付をします。ふるってご参加ください。

なお、2日間にわたって、山頭火や工藤好美・千代さんに関する貴重な品物の展示も行う予定です。あわせてご覧いただきたいと思います。

今回のフォーラムは、今なお多くの人々に愛されている種田山頭火と、佐伯との関わりについて知ることができる内容となっています。皆様、お誘い合わせの上ご来場いただきたいと思います。

3 秋のイベントについて

この秋も、各地で恒例のイベントが多数開催されます。その中から、いくつかピックアップしてご紹介します。詳細については、それぞれの資料をご覧ください。

(1) ツール・ド・佐伯2014

日時：10月12日(日) 8時～スタート

場所：総合運動公園スタート・ゴール

佐伯市を舞台に、5つのコースで健脚を競う自転車レースです。この大会は、順位を競うというよりも、各コース沿いに広がる景色や、休憩場所で提供される地元の食べ物などを楽しんでいただくことを目的とし、多くのボランティアの皆さんに支えられています。今年は、初めて1,000人を超える申込みがあったとのこと、盛大な大会になるものと思われます。

(2) 椿原・八匹原祭典・うめ秋大祭・大分県商工会物産展

日時：10月18日(土)、19日(日)

場所：宇目B&G海洋センター

今年は、古くから宇目地域で保存・継承されてきた「椿原・八匹原」の両祭典と、宇目地域の秋祭りである「うめ秋大祭」を同じ会場で開催するほか、県下の特産品を集めた「大分県商

「工会物産展」が同時開催されます。

「商工会物産展」は、県内持ち回りで開かれていますが、今回、東九州自動車道の開通を記念し、佐伯市で開催されることになりました。

(3) 米水津おさかなまつり

日時：10月26日（日）9時30分～

場所：米水津スポーツ公園グラウンド

米水津地域をあげての秋のイベントです。大人気の「ブリッコレース」、「伊勢えび・ヒラメ釣り」、地元の特産品の大特価販売など、米水津を満喫していただけるイベントです。